

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千里竹見台団地 C6号棟	階数	地上7F
建設地	大阪府吹田市竹見台	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、25m第	平均居住人員	193 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2022年10月3日
敷地面積	4,432 m ²	作成者	株式会社遠藤剛生建築設計事務所
建築面積	788 m ²	確認日	
延床面積	3,697 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 88%

③上記+②以外の 88%

④上記+ 88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 当建物は昭和43年に供用開始された団地の一部建替である。基本的には既存の配置、規模を継承しつつ、時代に合った建物を計画している。		その他 既存地形をできるだけ踏襲し、切土盛土を極力低減。かつ既存自然環境の保全に努めている。
Q1 室内環境 ・住宅性能表示の温熱環境対策等級4 ・建材はF☆☆☆☆ ・幅広サッシ採用	Q2 サービス性能 ・建築物移動円滑化基準を満たす ・共用部・外装仕上の防汚、防錆に配慮 ・共用部の維持、管理、修繕、清掃に配慮 ・住宅性能表示の劣化対策等級2	Q3 室外環境(敷地内) ・街並み・景観について、配置・植栽・色彩・記憶の継承・周辺からの景観に配慮 ・既存樹木をできるだけ保存
LR1 エネルギー ・住宅性能表示のエネルギー消費量対策等級4	LR2 資源・マテリアル ・内外装材の一部に特定調達品目を採用	LR3 敷地外環境 ・照明計画は照明の専門家が参加

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0080

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	千里竹見台団地 C6号棟					
		建設地	大阪府吹田市竹見台					
		用途/区分	集合住宅					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					4		
③	建物の断熱性					4		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.4	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.0	4	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.2	3	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								